

チャノキイロアザミウマ情報第1号

令和5年4月21日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

ブドウ、カキの防除適期は前年より早いと予測します。
発生状況に注意し、防除しましょう。

1 発生ピークの予測

有効積算温度を利用したチャノキイロアザミウマ第1世代成虫の発生ピーク予測日は、中山間部に位置する稲武を除いて5月8日から14日です（表1）。

前年と比較して2月以降の気温が高く推移しているため、今年のチャノキイロアザミウマ第1世代成虫の発生ピークは、前年と比べ2日から5日早いと予測します。

表1 チャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日（4月21日計算時点）

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎
第1世代	5/13	5/13	5/8	5/8	5/13	5/14
（前年）	5/17	5/16	5/12	5/13	5/15	5/18
前年差	4日早	3日早	4日早	5日早	2日早	4日早
第2世代	6/11	6/13	6/6	6/5	6/12	6/12

	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖	稲武
第1世代	5/8	5/11	5/14	5/11	6/7
（前年）	5/13	5/14	5/18	5/15	6/7
前年差	5日早	3日早	4日早	4日早	±0
第2世代	6/7	6/10	6/13	6/10	7/6

各地のアメダス平均気温から予測。

4月20日までは実測値を、それ以降は平年値を用いて計算。

前年の第1世代は、前年気温の実測値を用いて計算。

なお、4月20日名古屋地方気象台発表の1か月予報によると、向こう1ヶ月の気温は平年並か低い見込みです。平年に比べ日平均気温が低く推移した場合は、発生ピークは現時点の予測日より遅くなる可能性があります。

4月28日発表予定の「令和5年度病害虫発生予報第2号（5月）」に、最新の気温データを基にした発生ピーク予測日を掲載しますので、参考にしてください。 (<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/index.html>)

2 防除

ブドウでは、例年5月上旬頃から成虫の飛来があり（図）、カキでは開花期頃から成虫の飛来が多くなります。

チャノキイロアザミウマの防除では、成虫発生ピーク時の農薬散布が最も防除効果が高いとされています。例年発生の多いほ場では、表1の第1世代成虫の発生ピーク時期を参考に表2の薬剤などで適期に防除しましょう。

また、防風用に植えているイヌマキやサンゴジュなどは、本種の発生源になりますので、これらの発生状況にも注意しましょう。

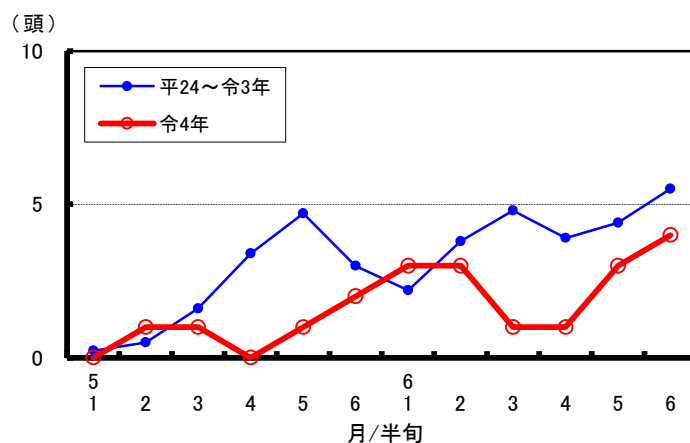


図 東浦町（ブドウ）の黄色粘着板におけるチャノキイロアザミウマの誘殺状況
（平成24～令和3年の平年値及び令和4年のデータ）

表2 チャノキイロアザミウマの主な防除薬剤

作物	薬剤名	成分	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	IRACコード
ブドウ	コテツフロアブル	クロルフェナピル	収穫60日前まで	2回以内	散布	13
	モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド	収穫14日前まで	3回以内	散布	4A
	コルト顆粒水和剤	ピリフルキナゾン	収穫前日まで	3回以内	散布	9B
カキ	バダンSG水溶剤(※)	カルタップ	収穫45日前まで	4回以内	散布	14
	コルト顆粒水和剤	ピリフルキナゾン	収穫前日まで	3回以内	散布	9B

※樹勢の弱い場合には薬害を生じるおそれがあるので使用しない。

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRACコードの詳細は、

https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/mechanism_irac03.pdf を参照する。

薬剤散布の際は、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。